会長挨拶

　本日は、ご多忙な中　私共の会長・社長就任式にご臨席を賜り誠にありがとうございます。
今日まで事業を通じて善きご縁をいただいたお客様、産業振興等でご指導いただいた行政関係の皆様、公私にわたってお世話になりました業界の先輩諸氏ならびに業界団体の皆様、また各専門分野でご指導をいただきました先生方に、厚く御礼を申し上げます。
　また25年間の長きにわたって社長の役割を果たすことができたことは、苦楽を共にした社員と家族そして仲間の皆さんの理解と温かい支えによるものと深く感謝いたしております。

私たちは、今日ここで世代交代をいたします。

ここに今日までを歴史を振り返ってみますと1950年（昭和25年）に創業者が自宅の離れで、ブリキのおもちゃのプレス加工を始めたところからの創業となりました。
1985年に現在の本社工場を竣工しましたが、この機会に創業者からバトンタッチをしました。
私が二代目社長として、自身に与えたミッションは次のようなものでした。
　①創業者の思いを言葉化する。
　②家業を事業化し、次の世代に企業と事業を繋いでいく。
　③創業者が築いた信用という土台の上に時代に合ったビジネスモデルを構築する。
　④時を超えて進化し続けるビジョナリーカンパニーを目指していく企業にする
そして社長就任から5年後、バブル崩壊直前の1990年を第二創業と位置づけＣＩに取り組み、経営理念と企業ビジョンを明文化し、社名を現在の最上インクスに変更しました。さらに大型倒産の嵐の中にあった1997年に「薄板金属加工のコンビニ」というキャッチフレーズを掲げ、薄板に特化し薄板金属のことならすぐに対応でき、お客様の利便性を追及していく企業を目指し始めました。さらに2年後の1999年、「世界一の試作加工メーカー」になろうという大きな旗（目標）を掲げ、試作に経営資源を集中させ、試作から量産まで一貫して対応できる体制を確立し現在に至っています。

世代交代という視点からみれば、創業者の鈴木嘉行が1950年12月に創業したときの年齢は37歳でした。二代目の私が社長に就任したのは、プラザ合意によって円高不況が叫ばれた1985年、年齢は37歳になる年でした。そして三代目の鈴木滋朗が世代交代により社長に就任するのは、リーマンショックによる不況の真只中にある2010年2月、年齢は37歳になる年であると同時に、奇しくも創業60周年を迎える年でもあります。
三代にわたって37歳の社長就任が基点となり、世界情勢も順風とはいえない荒波のなかからスタートするというのも、螺旋階段のように発展する歴史の意図を感じます。

新社長は、創業以来60年の歴史とＤＮＡとしての基本理念をしっかりと受けとめた上で「100年続く企業を目指すと」と云ってくれています。まだまだ経験も浅く非力ではありますが、若い幹部・社員の皆で力を合わせて進化を続け、お客様に頼られ地域社会に愛される100年企業を目指してくれるものと信じております。

私たちは世代を交代をいたします。若い世代が運営する㈱最上インクス並びにグループ企業へ、これからも皆様の温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年2月27日

代表取締役会長　鈴木三朗